

まちづくりについて
活発な議論を展開

10/30~
11/22

平成25年度地区懇談会

市は、10月30日(水)から11月22日(金)まで、各地区連合町内会との平成25年度地区懇談会を市内10会場で開催しました。

この懇談会は、まちづくりについての意見や地域が抱える問題などについて、市民と市の職員が懇談を行うとともに、地域や市が取り組んでいることなどについて、情報を共有することを目的に、地区連合町内会ごとに毎年開催しているものです。

市からは、『公共施設整備のあり方』や『新しい除雪体制』、『コミュニティスクールの導入』など9項目を情報提供しました。

また、地区連合町内会からは、道路管理や交通安全、防災対策など暮らしに身近な課題のほか、市の施策やまちづくりの取り組み、各地区の課題などについて意見や質問が出されるなど、まちづくりに向けて、市民と市職員が活発な議論を展開しました。



子どもと触れ合いながら
子育てを学ぶ

10/29~
11/7

緑陽中学校3年生家庭科保育実習

10月29日(火)から11月7日(休)までの火・木曜日、緑陽中学校3年生約130人が家庭科の保育実習のため、学級ごとに1日ずつ、市が特定非営利活動法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶに委託し、亀田記念公園管理棟2階に開設している富岸子育てひろばを訪れました。

生徒は、室内遊び、外遊び、子育て講話の3つのグループに分かれ、富岸子育てひろばに遊びにきた子どもたちと一緒に遊んだり、絵本を読んだり、子育て中の方から子育ての体験談を聞いたりしながら、子育ての大変さや楽しさを学んでいました。

歴史的なつながりにより
白石区ふるさと会が橋渡し

10/31

災害時における食糧供給の協力に関する協定書締結式
10月31日(木)、札幌市白石区役所で登別市と西山製麺(株)、(株)ロバパン2社による『災害時における食糧供給の協力に関する協定書締結式』(市主催)が行われました。

この協定は、津波想定の見直しにより市街地の多くが被災する恐れがあることから、津波被害が少ない内陸部の企業と食糧供給の協定先を探していたところ、旧仙台藩白石城主の片倉家に開拓された地という、歴史的ゆかりに基づき交流している『白石区ふるさと会』の仲介により実現しました。



▲西山製麺(株)、(株)ロバパンと交わした協定書



▲札内町に設置された太陽光パネル（左上）（一般家庭560世帯分の電力量）

あらためて登別の 観光資源に親しむ

我が街再発見観光市民講座

10/5
~26

10月5日〜26日の毎週土曜日、「我が街再発見観光市民講座」（登別市観光ホスピタリティ推進協議会主催）が開催され、4日間で計138人の市民が、市内の観光地の視察や湯の華づくり体験などを行いました。同講座は、ことし登別地獄まつりが第50回を迎えたことを機に、多くの市民に市内の観光資源を再認識してもらおうと開催。湯の華づくりでは、湯の華で木の葉や鬼の顔など思い思いの形を作り、楽しみながら市の特産品について学びました。



▲笑顔で湯の華づくりを体験する参加者

膨らむ期待 メガソーラー発電始動

災害時電力提供・企業立地協定調印式

11/7

11月7日（木）、市役所で株大林クリンエナジーと『新エネルギーによる災害時ににおける非常用電力の提供』『企業立地』に関する2協定を締結しました。

同社は、札内町の市有地に太陽光パネル8千592枚を設置し、10月3日（木）から発電を開始。災害に伴う停電が発生した場合は、防災活動における資機材の充電などに活用することができます。

また、同発電所は、観光資源や環境学習の場としての活用も期待されます。

暮らしを支える 施設を巡る

市民見学会

10/29

10月29日（木）、市民見学会（市主催）が開催され、11人の参加者は若山浄化センター、クリンクルセンター、登別漁港、登別地獄谷を見学しました。

同見学会は、施設の見学などを通して市政に対する理解を深めてもらうため、毎年実施しています。

登別漁港では、参加者はその広さに驚きながら、清浄海水を供給する施設や製氷・貯氷庫など最新の衛生管理体制に感心していました。また登別地獄谷散策後は、大湯沼川の天然足湯を体験し、楽しみながら市の擁する観光資源について認識を深めていました。

各施設では市の職員や観光ボランティアガイドによる説明があり、参加者は興味深そうに質問をしていました。



▲クリンクルセンター（上）と登別漁港を見学する様子